

第303回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日時 平成26年7月8日(火) 11:50~13:00
2. 場所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix みんなの19HR!
[放送日時] 平成26年6月25日(水) 19:00~21:00
[出演者] 加藤ジュン
4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 副委員長 谷川真美 委員 山本りさ
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
常務取締役放送事業本部長 上野豊
放送事業本部副本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史
編成制作部 安原明子

5. 事務局報告

- 6月に実施した静岡県ラジオ聴取率調査の結果について
- V-LOW マルチメディア放送のハード会社認可と放送計画の現状について

6. 番組審議

[対象番組] K-mix みんなの19HR!

[放送日時] 平成26年5月25日(水) 19:00~21:00

[番組内容] 北海道旭川市出身。海と音楽が大好きで、ラジオDJになるために様々な経験“イマドキ男子”とは一線を画す気骨男子が、静岡のホームルームの一員となって、静岡の夜を盛り上げる。10代、特に学生をターゲットに、夜ならではのリスナー・コミュニケーションを目指す番組。

[聴取・合評での主な意見]

谷川副委員長 懐かしい感じがする番組。若年層向けの番組という、昔は中高生が夜、深夜に一人で聴くのが楽しいというイメージだったが、この番組は比較的健全で青春の感じがして好ましい。こうしたタイプの番組はあまり多くはないのではないか。このまましばらく見守っていきたい。加藤さんの声質やしゃべり方は、ほどほどに砕けていて、ほどほどに堅い。10代をターゲットにするのに適している。全体として2時間の中でメインとなるテーマが一つしかないわりには、間延びがしていない。取材や電話インタビューなど、出演者も学生が多いが、その場でうま

くインタビューに答えられる子ばかりではないので、インタビューの仕方にさらに工夫が望まれる。また、それぞれのコーナーの内容説明がキチンとしすぎて逆にわかりにくい感じがする。インタビュー取材の録音素材で、インタビュー相手の声に多くのノイズがのっていて聴きづらい。

山本委員

前回審議した時よりも、加藤さんが学生のリスナーに対して親身になっていて、お兄さんらしい存在になっている。女子学生と男子学生だと男子の方が話しやすそうだ。恋バナのもとになった「髪の毛ブロッコリー」君を、番組冒頭だけに電話出演させるのではなく、彼の悩みに対しリスナーからたくさんの意見やアドバイスが出たあとの番組最後にも出演させ、彼自身の声で感想を言わせた方がよかった。

出口委員長

前回審議した時は、加藤さんがこの 19HR の先生なのか、学級委員長なのか曖昧だったが、今回の番組を聴くと、クラスのリーダー的存在としてリスナーの声をうまく聞き出している感じがする。クラスのリーダーでありながら、学生の中にどっぷり入るのではなく、ある程度距離を置きながら彼らに近づこうとしているのがよい。10 代のリスナーのほか、30 代や 40 代のリスナーもこの番組を聴いていることが、聴取率のデータ上でも確認できたが、親世代の大人が聴いても今の子供が日頃どういう風に考えているかがわかり、面白いのではないか。取材先でのインタビューだが、事前に決まっていた相手だけではなく、学校の校門などで無差別無作為にインタビューをしても面白いとおもう。また、チャイムや周りの音を入れるなど、スタジオではない学校内での情景を出した方がよい。

会社サイド

前回（第 302 回）では、好き嫌いの分かれるパーソナリティ像や中継時の状況説明などについてご意見をいただきました。いただいたご意見は番組作りの参考とさせていただきます。今回（第 303 回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 平成 26 年 9 月 8 日（火） 11:50～13:30 を予定

以上

番組審議会委員長

出口 泰 規